

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

|      |  |
|------|--|
| 対象部局 | 商学研究科  |
| 大項目  | 5 学生の受け入れ  |
| 中項目  |  |
| 小項目  | 5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。   |
| 要素   | 求める学生像の明示<br>当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示<br>障がいのある学生の受け入れ方針       |
| 小項目  | 5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。                          |
| 要素   | 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性<br>入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性                         |
| 小項目  | 5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。                   |
| 要素   | 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性<br>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応                          |
| 小項目  | 5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的<br>に検証を行っているか。 |
| 要素   |  |

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

| 2009年度に設定した「目標」  | 左記目標の「指標」  | 進捗評価 |
|--|--|------|
| 1. 内部からの進学者のみでなく、広く学外入学者、内部・外部からの留学生、他研究科からの入学者を受け入れる。 | →学内外を対象として春学期・秋学期に各2回ずつ開催している入試説明会の告知方法の多様化、参加人数の増加。 | A    |
| 2. 定員充足率を高める。  | →充足率。  | B    |
| 3. 専門職業人の養成を教育目標のひとつとして教員が意識を共有する。                     | →教育コンテンツや卒業生のキャリア等についての情報共有の促進とそのための機会提供。            | B    |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 |
|-------------------|-----------|------|
|                   | →         | ☆    |
|                   | →         | ☆    |

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

|            |   |
|------------|---|
| ☆ 小項目5.0.1 | (方針)<br>アドミッション・ポリシーにおいて明示する。<br>(現状説明)<br>アドミッション・ポリシーが定められていなかった。 |
| ☆ 小項目5.0.2 | (現状説明)<br>学生募集、入学者選抜は、当然のことながら、公正かつ適切に行われている。                       |
| ☆ 小項目5.0.3 | (現状説明)<br>定員を適切に設定し、収容定員についても適正に管理している。                             |
| ☆ 小項目5.0.4 | (現状説明)  |
| ☆ その他      |   |

## 《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

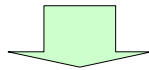
| 【商学研究科】 |                   | 前期/後期課程 | 単位 | 2006   | 2007  | 2008   | 2009   | 2010   | 備考            |
|---------|-------------------|---------|----|--------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| 指標1     | 入学者に占める一般入試入学者の比率 | 前期課程    | %  | 36.0%  | 25.0% | 28.6%  | 30.8%  | 22.2%  | 一般入試入学者数÷入学者数 |
|         |                   | 後期課程    |    | 100.0% | 66.7% | 100.0% | 100.0% | 50.0%  |               |
| 指標2     | 志願者総数             | 前期課程    | 人  | 31     | 17    | 31     | 36     | 36     |               |
|         |                   | 後期課程    |    | 1      | 3     | 1      | 4      | 3      |               |
| 指標3     | 志願者倍率             | 前期課程    | %  | 103.3% | 56.7% | 103.3% | 120.0% | 120.0% | 志願者÷入学定員      |
|         |                   | 後期課程    |    | 10.0%  | 30.0% | 10.0%  | 80.0%  | 60.0%  |               |

注) 指標2, 3について入学定員の変更あり  
2006年度まで前期課程50名、2007年度より前期課程30名

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

|            |  |
|------------|--|
| 小項目5.0.1   | アドミッション・ポリシーを研究科委員会において議論し、決定した。ポリシーを今後、適宜必要に応じて各種文書等に明記する。  |
| 小項目5.0.2   | 2010年度より入学試験願書の書式変更を通じて、志願者が希望する指導教授と研究内容等について事前に面談を行うことを徹底させ、入学後の学生と指導教授との研究内容に関する齟齬が生じないように工夫を図った。 |
| ☆ 小項目5.0.3 | 在籍者数は、前期課程、後期課程ともに安定的に増大している。  |
| 小項目5.0.4   | 2010年度春学期より、商学部の全演習科目、および入門科目等でチラシを配布し、またWEB上でも告知機会を増やすなどしたことによって、とくに低学年(1、2年生)を中心に参加者が増加した。         |
| その他        |  |



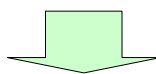
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

|            |   |
|------------|---|
| 小項目5.0.1   | アドミッション・ポリシーと整合的な入試案内等を作成を心がける。                       |
| 小項目5.0.2   | やむを得ず面談が困難な場合には、メールによる意思疎通を図るよう事務室窓口を通じて、志願者、教員に要請する。 |
| ☆ 小項目5.0.3 | 年間を通じて、合格者数、入学者数を適宜把握する。                              |
| 小項目5.0.4   | 今後も継続して説明会参加者からアンケートを取り、告知機会、説明内容等について工夫を重ねる。         |
| その他        |   |

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

|            |  |
|------------|--|
| 小項目5.0.1   |  |
| 小項目5.0.2   |  |
| ☆ 小項目5.0.3 |  |
| 小項目5.0.4   |  |
| その他        |  |



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

|            |  |
|------------|--|
| 小項目5.0.1   |  |
| 小項目5.0.2   |  |
| ☆ 小項目5.0.3 |  |
| 小項目5.0.4   |  |
| その他        |  |

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述) 2009年度末に目標を設定したところであり、この4か月弱の間になしうる改善はすべて行われている。また、この間に新たに改善すべき事項は発生していない。

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○後期課程の収容定員に対する学生数の比率は0.35であるが、適正な管理であると記述する(小項目5.0.3)の根拠は何でしょうか。

## 【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○小項目5.0.1の(方針)は、受け入れ方針の内容を書いてください。

○小項目5.0.2の現状説明において、「公正かつ適切に行なっている」内容について説明してください。これでは現状説明にはなっていません。

○小項目5.0.3も5.0.2と同様です。適正に管理している現状を説明してください。特定6項目データを使用して説明するなど工夫してください。

○効果が上がっている事項の小項目5.0.4は小項目の番号と連動していません。

○現状説明の記述は、いずれの小項目とも不十分です。

○5.0.4については記述が抜けています。

○「効果が上がっている事項」について、小項目5.0.1の記述は記入すべき内容として不適切です。また、小項目5.0.4の記述は項目の内容とマッチせず、さらに何についての記述なのか不明です。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ ①5.0.4の記述漏れについては、以下のとおり追記したい、「通常の入試案内やWEB上での告知、募集に加えて、年間2回の学外にも公開したかたちの説明会を実施している。」 ②「効果が上がっている事項」の5.0.1については、アドミッション・ポリシー自体が未設定であったため、これを設定したことを「効果が上がっていることとして評価されたい。③また、同じく5.0.4については、説明会でアンケートを実施することにより、より一層志願者のニーズにあった説明会へと改善が進められていることが、効果であると考え。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

|           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 5.0.0.S1  | 学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合        |
| 5.0.0.S2  | 各学部での募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合  |
| 5.0.0.S3  | 地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数        |
| 5.0.0.S4  | 入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数    |
| 5.0.0.S5  | AO入試の受験者数と入学者数                     |
| 5.0.0.S6  | 社会人学生数(学部別、研究科別)                   |
| 5.0.0.S7  | 専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数           |
| 5.0.0.S8  | 科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数 |
| 5.0.0.S9  | 聴講生の入学者数                           |
| 5.0.0.S10 | 留学生数(学部別、研究科別)                     |
| 5.0.0.S11 | 国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化              |
| 5.0.0.S12 | 学部における収容定員に対する在籍学生数比率              |
| 5.0.0.S13 | 学部における入学定員に対する入学者比率                |
| 5.0.0.S14 | 編入学定員に対する在籍学生数比率                   |
| 5.0.0.S15 | 博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率 |
| 5.0.0.S16 | 博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率 |
| 5.0.0.S17 | 学部・学科の退学者数                         |
| 5.0.0.S18 | 学部・学科の編入学者数                        |

<個別的な指標>

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|